

映画「遙かな町へ」

舞台の倉吉に活気



倉吉市が映画で活気づいています。同市を舞台にした漫画『遙かな町へ』の実写版映画の撮影が8月から始まり、豪華俳優陣がロケに臨んでいます。白壁土蔵群を中心とした撮影現場は作品の時代に合わせ「昭和」の雰囲気に変。映画化効果で原作漫画への関心も高まっています。

原作に関心高まる 市立図書館に専用コーナー

「遙かな町へ」は、鳥取

市出身の漫画家、故・谷口 主役の大人の博史役には大ジローさんが1998年に 谷亮平さん(44)、博史の両親に戸田菜穂さん(51)、滝で、48歳の主人公、博史が 藤賢一さん(48)と、テレビふるさとの倉吉に帰省中、 1998(平成10)年から 用されました。中学生の博史とマドンナの智子役にイムスリップし、中学2年生の生活を追体験する物語です。大人の目線を通じて接する友人やマドンナとの交友、自身と同年となる父親との人間関係を通じて、人生を見つめ直していきます。



白壁土蔵群内で行われた、映画『遙かな町へ』の撮影風景

倉吉での撮影は9月下旬まで行われ、来年初の全国公開を予定しています。作品は海外の主要な映画祭にも出品される予定で、錦織監督は「倉吉から日本の心を発信したい」と意気込みを話しました。

(井田慎一)

多くの市民が博史の同級生や通行人役として作品づくりに協力しており、100人以上が出演した本町通り(同市魚町)での撮影では、活気あふれる昭和の倉吉の風景がよみがえりました。

昭和の町並みを再現するため、白壁土蔵群中心の玉川沿いではアスファルトをはがして砂の道路に戻す工事が行われたほか、各現場には木製の電柱や昭和中期まで活躍したオート三輪と呼ばれるトラック、ボンネットバスが登場。周辺はまるで昭和38年にタイムスリップしたかのような雰囲気になりました。

同作の映画化決定を受け、原作漫画への注目も高まっています。



倉吉市立図書館内に設けられた、『遙かな町へ』特設コーナー

映画『遙かな町へ』日本海新聞(2025.9.21_13面掲載)